

## 第16回トラック輸送における取引環境・労働時間改善大分県地方協議会議事録

- 1.日 時：令和7年2月27日 14：00～16：00
- 2.場 所：大分県トラック会館 5階 大会議室
- 3.出席委員：別添「出席者名簿」参照

### I.開会

(事務局：大分運輸支局 山田運輸企画専門官)

- ・開会の言葉
- ・配布資料（資料1～8、別添資料）

II.開会のあいさつ 大分労働局 本多信一郎 労働基準部長

III.議題 座長 前田明 (国立大学法人大分大学 名誉教授)

#### 1.情報提供

##### 1-1 国土交通省の取組

九州運輸局自動車交通部貨物課 白水祐慈 主査

##### 1-2 厚生労働省の取組

大分労働局労働基準部監督課 大澤一稀 監督官

##### 1-3 農林水産省の取組

九州農政局経営・事業支援部食品企業課 福村礼介 課長補佐

##### 1-4 公正取引委員会の取組

公正取引委員会事務総局九州事務所総務課 柏木智宏 下請課長

##### 1-5 経済産業省の取組

九州経済産業局産業部流通・サービス産業課 西尾雄二 室長

##### 1-6 大分県の取り組み

大分県企画振興部交通政策局地域交通・物流対策室 小川寛之 主幹

上記内容につき、各担当者から説明があった。

前田座長から、議場に意見を求めたが、意見はなかった。

#### 2.令和6年度における大分県地方協議会の取組

説明 事務局：九州運輸局大分運輸支局輸送課 野中綾介 首席運輸企画専門官

#### 3.令和7年度大分県地方協議会の取組方針

説明 事務局：九州運輸局大分運輸支局輸送課 野中綾介 首席運輸企画専門官

(前田座長)

説明の中で、荷主と運送事業者の認識のズレとのコメントがあったが、具体的にどのようなズレなのか

(九州運輸局大分運輸支局輸送課 野中綾介 首席運輸企画専門官)

Gメン活動の中で、荷待ち時間に対する認識の違い、運賃交渉では、運送事業者は書面で交渉したつもりであるが、荷主側はだだの雑談程度とっていたなどの意見があった。

また、荷主は元請運送事業者には指示していたが、下請け事業者との関係がスムーズでないなどの意見があった。

#### 4.意見交換 主な意見、発言について

##### ■十時委員 (株)NBS ロジソル

平成27年からトラック輸送の労働環境の改善のため、関係行政機関のリーダーシップのもと活動がスタートし、以前よりも取り組みやすい状況には至っている。しかしながら、まだまだ道半ばである。価格交渉にあたり標準運賃の収受はほとんどの運送事業者ができていない。今後、荷主の理解を進めていく施策はあるか

(九州運輸局大分運輸支局輸送課 野中綾介 首席運輸企画専門官)

交渉を行うにあたり、荷主から運送事業者の経営状況に関する資料を求められるケースがある。公正取引委員会が示す適正な価格転嫁の実現に向けた取り組みでは、交渉での説明・資料を求める場合は、公表資料とするように示されている。標準的な運賃表はそれにあたるのが、運送事業者自身が知らない。今後は運送事業者に対しても理解を進めていく。

(公正取引委員会事務総局九州事務所総務課 柏木智宏 下請課長)

説明のとおり、標準的な運賃を公表資料とするよう示している。これを元に満額の収受は難しくとも、希望額に近づくように交渉して欲しい。

(九州運輸局自動車交通部 大久保栄作 部長)

現在、バス、タクシーは認可運賃で、その運賃を収受していないと罰則規定がある。トラック事業については、あくまでも標準的な運賃としての告示であり強制力が無い。全国から同様に認可運賃として欲しい旨の意見が多く寄せられており、国土交通省にも上申していきたい。

##### ■山崎委員 大分キャノン(株)(代理 堤 亮介 上席担当部長)

待ち時間の削減のため、便ごとの運行時間や接車時間を決めている。また、接車ゲートの有効活用による更なる短縮に取り組んでいる。イレギュラーな運行に備えて、受付員の常時配置をしている。

■岸本委員 日本製鉄（株）九州製鉄所（代理 岩尾雄介 大分物流室長）

2024年問題にあたり、トラックドライバーの労働時間短縮のため、国土交通省の指導の下、配送時間の短縮、待ち時間の短縮を1年間取り組んできた。工場によっては遅れているところもあったが、全体的には取り組んでいる。大分製鉄所においても、行政やトラック協会と協議しながら進めている。特に、高速道路の利用については、短い距離であっても利用するように推奨している。

■國門委員 日本通運（株）大分支店

大手運送会社としての立場としては、荷主との関係と協力会社との関係もあるが、標準的な運賃は収受できていない。行政の指導の下、運賃交渉はしやすくなったが、標準運賃に届いていない中で、協力会社にも払っていない。今後、認可運賃への移行など、一歩踏み込んだ施策を実施して頂きたい。

■中野委員（公益社団法人大分県トラック協会 副会長 オブサーバー参加）

私の会社も農産品輸送を中心に事業を行っております。本日お見えの九州農政局や全国農業協同組合連合会大分県本部の皆様にも日頃から協力体制を取りながら、万全の輸送を心がけております。しかしながら、今後もドライバー不足をはじめとした輸送力の低下は危惧されています。

これまでも、このような機会に荷主の皆様にはお願いをして参りましたが、今後とも、引き続き発荷主、元請事業者及び着荷主の方々のご協力を頂きながら、本会議が有意義なものになりますようにして頂ければと思います。宜しくお願いします。

■仲委員（公益社団法人大分県トラック協会 会長 欠席のため藤原専務理事代読）

本日は、全日本トラック協会の中で、私が委員長を務める「多重下請小委員会」の会議と重なり出席できず、大変申し訳ありません。昨年4月からの時間外労働の上限規制等により、物流の停滞の怖れが多くのメディアを始め色々な機会に取り上げられ、我々運輸業界も懸命に安定した物流の確保のため、あらゆる対策を講じて取り組んでいるところです。しかしながら、現在物流の安定の為には、これらを解決する確かな原資が必要となります。荷主企業と輸送の効率化や適正な運賃収受につきまして、積極的に交渉を重ねておりますが、まだまだ十分な成果を達成できていない状況です。そして、多くの運送事業者が悩む荷待ち時間の短縮や適正な取引環境の改善は喫緊の課題です。このため、引き続き、荷主の方々に対して誠意をもって交渉に臨んでいきますので、ご理解の程、宜しくお願い致します。また、行政機関の皆様には、引き続き、運送業界へのご支援を宜しくお願い致します。

IV 閉会の挨拶 九州運輸局自動車交通部 大久保栄作 部長

V 閉会

時に、16時00分であった。